FIWC関東
Friends International Work Camps
関東委員会
with S.C.I. (Service Civil International) Japan

定例委員会報告

2001.6

参加者：中村博志、山崎真吾、鳥居厚志、笠眉彦、目黒美穂子、峯岸直廣、
小林武史、和田昭子、田中祐也、服部雅行、西尾雄志、茂木亮
以上12名

ヤバケイのメェさん

モグネット
www.mognet.org

2001年6月23日（土）目黒鍼療院にて。

司会：中村博志

FIWC関東委員会の呼びかけで、SCI-Japanと合同で行っています。

活動の報告と予定

愛生園夏祭りチンドン隊！（FIWC）

7月31日（火）に岡山の長島愛生園で夏祭りが催されます。園内に住む多くの皆さんに、祭りの気分を味わっていただこうと、ここ数年チンドン隊を結成し、園内を練り歩いて祭りを盛り上げます。昨年は楽器隊・ダンサーチーム（もちろん？全員素人！）合わせて30人ほどが参加しました。今年もチンドン隊を募集します。ダンサーチーム希望の方はコスプレ、楽器隊希望の方は楽しい練習等、事前の準備が必要ですので早めに連絡をお願いします。29・30・31日に宿泊先を用意していただきました。宿泊希望の方は遅くとも7月14日までにご連絡を。また、お祭りの前日は準備があるので人手を募集します。詳しくは、直接電話かメールで担当者まで!

（6/17井の頭公園で東京のメンバーが初練習）

笠眉彦

東日本連絡先

茂木 亮

西日本連絡先

松田浩江
戸張岳陽

浜松キャンプ（SCI-Japan）

2001.8.11～25

浜松のブラジル人が通う学校でキャンプをやります。詳細は以下のとおりです。

ワーク内容：学校のペンキ塗り

現在、ドイツ、オーストリア、スペイン、ネパール、韓国、バングラデシュ、ポーランドからの参加者が確定しています。ワークはそれほどたくさんはなさそうなので、ディスカッションなどをしながらキャンプを進めていく予定です。

西尾 雄志

フィリピンキャンプ（FIWC関東）

2002年 春

次回のフィリピンキャンプのリーダーになりました田中祐也です。現段階で決まっていることは、11月の上旬に下見。12月の中旬までにビラ等による募集をかけ、説明会の実施、定例会、勉強会への参加呼びかけをし、2月に2週間位の予定でワークを実施する予定です。

何もかもが素人なので、多くのキャンプ経験者の方や、仲間のアドバイス、他のワークキャンプなどを参考にしながら、より密度の濃いものにしていこうと思っています。フィリピンキャンプ参加者の方は、ぜひ定例会、勉強会、その他の活動に積極的に参加していただき、一過性のもので終わらないで次につ

FIWC関東定例委員会報告

なげていって欲しいと思います。未熟なもので、いろいろなことを勉強していかなければなりませんが、どうかご指導のほどよろしくお願いします。

田中祐也

インドキャンプ（SCI-Japan）

3月末に申請を出した郵貯「国際ボランティア貯金の配分金」からインド西部大地震救援キャンプの補助金がおりることが決まりました。そこで本格的にキャンプの参加者を募ります。SCIインド支部と連携をとりながら、被災地に学校兼コミュニティーセンターを耐震建築として建設するプロジェクトを開始します。時期はまだ決まっていませんが、希望としては8、9月（夏休み中）に下見をし、実際のワークキャンプは来年の2、3月に行いたいと思っています。インド大好き人はぜひ参加してください。そして特に、一緒にインド救済キャンプをコーディネイトしてくれる人（事務的なことが好きな人がいいです）を探しています。また中長期ボランティアの派遣も検討していきます。

まだどんな雰囲気のキャンプになるか分かりませんが、みなさんいっぱい手を貸してください。

奥村浩毅

山梨小杉農場キャンプ（SCI-Japan）

2001.8.2～16

リーダー：高浪千尋、サブリーダー：宮本久美子

山梨県、甲府盆地を見下ろす海抜800mにある農場です。外国からの参加も含めた国際ワークキャンプとして行われます。現在までの参加申し込みは国外から13名、で日本側からは男性の参加申し込みがありません。宿舎、その他の能力の関係であと3～4人ぐらい参加可能です。特に男性（！！！）の参加を歓迎します。作業は切り出した丸太を使って、森の中の新しい小屋作りの基礎となるデッキを作ります。

SCI-Japan
豊田 兼宇・素子

森元さんをかこんだシンポジウム（FIWC関東）

9月29日に代々木のオリンピックセンターにて、ハンセン病回復患者の森元美代治さんの講演を中心にしたシンポジウムを開催します。森元さん自身、「現在ワークキャンプに関わっている若い人たちとお話したい」とのことなので、森元さんの講演の後、森元さんとキャンパー達とでパネルディスカッションも開催する予定です。パネルディスカッションの具体的なテーマは、まだ決まってませんが、森元さんとキャンパーと共通する問題として、「ワークキャンプにおける他者との出会い」なんかを考えています。現在行われているキャンプでも、普段の生活では決して出会うことのない「他者」と出会うわけです。そういった他者と、どう関係を結び、どう行動していくか、といったことをキャンプでの経験を通して話し合うのはどうかと考えています。とは言っても詳細は未定です。とりあえず、7月6日に具体的なテーマの話を含めた打ち合わせを阿木さんと一緒に行います。時間のある方はどんどんきてください。場所は、千駄ヶ谷の河合塾コスモ校で、時間は5時からです。

西尾 雄志

あっちこっちの会

当日に突然お電話しておじゃましました。この「あっちこっちの会」というのは、あるおちついた雰囲気の喫茶店にて、峯岸さんが中心となって心の病をもった方々と会話を通して理解を深め、交流をしていこうというものです。精神病患者というとひどく偏見をもた

れているようですが（最近の事件なんかもありますしね）、実際に会ってみればいわゆる健常者のひととほとんど変わりはありませんし、内面的にも皆と同じように感じたり悩んだりしているようでした。ぼくははじめてこの会に参加しましたが、特に違和感なく過ごすことができました。興味のある人は行ってみましょう。

鳥居厚志

あっちこっちの会は、基本的に15時から17時なのですが流動的な会なので開始は同じですが終わる時間はまちまちな場合があります。35歳までの方はどうぞ。

峯岸直寛

寄稿

人類月面着陸を超えて

―各キャンプを担う若きリーダー達へ―

西尾 雄志

悲しいことがあった夜、涙をこらえて空を見上げると月がある。遠くかなたの月を眺めながら、20世紀の歴史を振り返ると、人類知の偉大さが見えてくる。

驚くべきことに、20世紀、人間は月にまで行ってきたのである。月である。

地の果てとしか思えない、バングラデシュのランガバリ島よりずっと遠い月である。

マニラからシウダドバスでレイテ島のオルモックまで行くより、ずっと遠い月である。

マスッドの家よりずっとずっと遠い月である。

国家プロジェクトとして、人類の知を結集させたら月にまで行けてしまった、20世紀とはそんな時代だった。

しかし、そのような形で人類の知を結集させて、国家プロジェクトとして全力で取り組んでも解決できなかった問題が20世紀にはあった。それが貧困問題だ。

それが病者に対する差別と偏見の問題だ。

それが異文化に住む人に対する他者理解の問題だ。

そして、それらの問題とはすべて、ワークキャンプと言う場で、キャンパー一人一人に突きつけられる問題でもあるのだ。あんなセコイ金しかかけないプロジェクトで、たいした知があるわけでもない寄せ集めのキャンパーで、我々は、20世紀が国家プロジェクトとしても成し得なかった難題と向かい合っているのだ。無謀としか言いようがない。

ワークキャンプとは楽しいものだ。観光では行けないような所にいけるし、現地の人ともとても仲良くなれるし、みんなと共同生活できるのも楽しいものだ。

「国家プロジェクトとか、20世紀の人類が解決できなかった難問だとか、そんなん知らんがな！　楽しかったらええやんけ！！」

それがキャンプに参加する人の率直な感想だろうし、それで全然問題ないし、私自身それが最も好きな意見である。

しかし、キャンプのリーダーを引き受ける人間には、それ以上の理想と信念をもってキャンプに望んで欲しい。20世紀の人類が成し得なかった難問に、素手同然で立ち向かおうとしているという気概をもって、キャンプに望んで欲しい。

うまくいかなくてもいいのである。失敗してもいいのである（うまくいきっこはないんだから）。だけど、リーダーがそういった気概をもってキャンプに臨むことによって、ワークキャンプと言うものの新たな一面が拓かれていくのだ。知らない所に行けて、外国人と仲良くなれて楽しかった、というキャンプに参加したフツーのキャンパーのフツーの感想に、新たな一面を切り開くのはリーダーがキャンプにぶつけようとしている自らの信念だ。

ワークキャンプは、観光旅行ではないし、ましてや「貧困見学ツアー」や「困ってる人見て来るツアー」でもない。そういったものを一つ越えた所にあるものが、ワークキャンプだ。そして「そういったものを一つ越える」その理念をもつことがリーダーに課された一番大きな仕事なのだ。

こういうことは、リーダーに対してプレッシャーをかけるように聞こえるかもしれないが、決してそうではない。有

FIWC関東定例委員会報告

能な上司として部下たるキャンパーを束ね、合理的かつ無駄なくプロジェクトを遂行させるべし！　ということなら話は別だが、私は決してそういうことを言いたいのではない。ワークの段取りが悪くてもいいのである。飯の時間が毎回遅れてもいいのである。事務処理能力がゼロでもいいのである。影でキャンパーから、「あのリーダー、ワークしてるトコ全然見ないよね」と言われてもいいのである。多くの人を束ね、合理的かつ無駄なく仕事を遂行するのは選ばれた有能な人間にしかできないが、理想と情熱を持つことだけなら誰にでもできる。リーダーはそれでいいのである。能力全くゼロの「口だけ星人」でいいのである。20世紀人類が解決できなかった問題を解決へと導く唯一の糸口は、大志を抱く一介の小さな人間の小さな理想と情熱でしかないからだ。

リーダーたる者、有能な人間である必要なし。リーダーたる者、参加したキャンパー一人一人に、自分がキャンプにかける信念、理念、目標、情熱を語れるべし。

そこから、単に楽しいだけの辺境ツアーを超える、ワークキャンプの新たな地平が切り拓かれていくのだ。

フィリピンキャンプの祐也、バングラキャンプの小林武史、ネパールキャンプの小野浩平、インドキャンプの奥村浩毅、韓国キャンプの川村さん・山極さん（実質リーダーだよね？）、人類月面着陸の次のページを切り拓くのは君達だ！　気合いを入れて頑張ってくれ！

ビラ貼り位なら手伝います。

FIWC関東委員会 会計より

年会費は3000円です。
以下の方より年会費をいただきました。
山岡聡、内田実智子

郵便振替 口座番号 00170-2-565117
加入者名：FIWC関東委員会

※領収証の発行を希望される方は、その旨お知らせください。

むすび新聞にカンパをいただきました。

ありがとうございました。（敬称略）
辻征雄、野浩一、高門亮子、石井雅子、平野俊彦、弘美、土子隆輝、西尾建人、岸野春子、小田弥一、井上浩孝、原康雄、湯浅進、浜島恭子、服部雅行、笠眉彦、目黒美穂子、福田恵子、山本剛、谷本幸司、山川千秋、佐藤里香、桜井清栄
引き続き「むすび新聞」へのカンパをお願いします。
郵便振替　00990－7－64532「交流の家」

次回の定例会　夏の報告をよろしく！

2001年9月8日（土）19時から
東京・新中野「目黒鍼療院」にて

担当：中村博志

フレンズ国際労働キャンプ（FIWC）関東委員会
委員長 西尾雄志
編集：茂木 亮

※PDF版では電話番号などの個人の連絡先は掲載していません。ご質問等は以下のアドレスまでお問い合わせください。mog@mognet.org